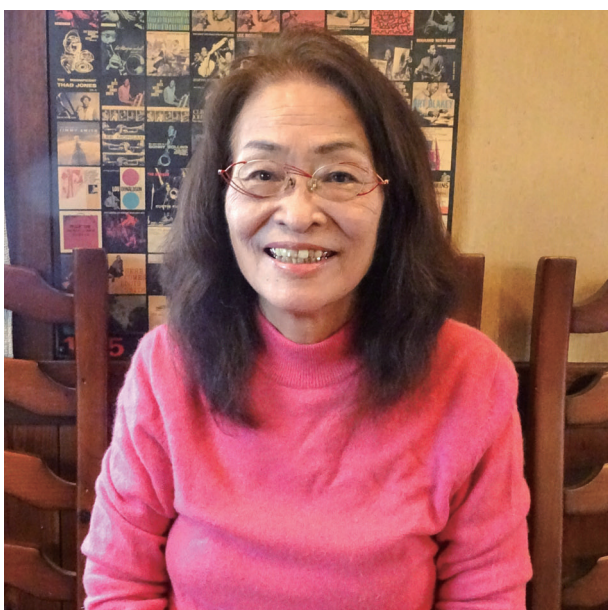


板倉惠三子さん、歌手人生の集大成

自作オリジナル作品出版記念 CD を発売



波乱の音楽人生、集大成CDについてを語る板倉さん

板倉さんはオペラやミュージカルをはじめ、名古屋、刈谷、安城、碧南、清水市など愛知、静岡県で数多くのコンサートを開催してきた。耳の不自由な人にも歌詞を伝えたいと取り組んだ手話付きのコンサートは1997年10月に始めた。

「大好きなフランスの歌手、シャルル・アズナヴールが唯一手話付きで歌った曲“声のない恋”を私も歌いたい一心で手話を勉強しました。最初は歌う私の隣で手話通訳をしていただきましたが、言葉の意味が中心になり、音楽が伝わらないと感じ、自分1人で、すべてをこなすことにしました。耳の不自由な方からは“歌が聞こえた気がした”とっていただきました。音楽空間で空気の振動のような形で伝わったのかもしれませんが、やってよかったです。今でも“愛している”などと歌詞を強調する時には自然に手話が出てきます」

社会で不自由な生活を強いられている人に音

大病を乗り越え、歌手人生の集大成として自身で作詞・作曲したオリジナル曲を収録した記念CDを作成した女性が愛知県にいる。高浜市青木町を拠点に、静岡などで音楽指導をしている板倉惠三子さん（77）。「山あり、谷ありの人生で、出会った多くの人への感謝を伝えたいと考えていたら、詩と曲がぴたりと自然につながりました」。その曲は自身が作詞・作曲し、昨年秋に収録した「あなたにありがとう」。手話をしながら歌う姿と共に、聞く人の心に響くその歌声は、人生の年輪を感じさせ、「若い時と違った柔和になった声に驚き、自分も癒されました。ぜひ聞いてください」と話す。

楽の素晴らしさを伝える“共に生きる”というメッセージは聞く人にしっかりと届いているようだ。ただ、板倉さんは音楽の魅力に浸りながらも、同時にたくさんの苦労も背負ってきた。

子供のころから祖父と一緒にレコードで浪曲を聴き、4、5歳のころにはお祭りで叔母が櫓の上で踊る姿をみて、自分も踊りたいと着物をあつらえてもらい、次の年には踊りました。小学1年の時は学校で見よう見まねで覚えたオルガンを弾き、清水市の中学校では生涯の音楽の恩師となる、河村愼太郎先生（故人）と出会った。



「素晴らしい先 「ありがとう」を手話で表現